

共生型放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月17日

公表:令和6年4月1日

事業所名 共生型サービス事業所ひよしの家

区分	チェック項目	事業所の評価				保護者の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちらとも えない	いいえ	工夫している点	はい	どちらとも えない	いいえ	ご意見	
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	5	4	・十分な広さは確保できないが、テーブルを準備したりソファを置く等している。 ・気兼ねなく過ごせるよう個室を使用している。	1	1	0	・宿題を見て頂いているが、間違えている所の訂正指導が無いときがある。	
	2 職員の配置数は適切である	4	5	3	・手の空いている職員が対応している。	1	1	0		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	1	1	・高齢者施設のため、バリアフリーや手すりの設置など配慮している。	2	0	0		
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	2	3	・日々の記録にて活動の様子を職員間で共有し、モニタリングや朝礼時に課題の検討をしている。					
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	5	0	・アンケート調査を実施して業務改善に反映している。					
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	4	1	・法人のホームページで公表している。					
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	6	3	・運営推進会議のメンバーから意見・評価をいただき、改善に繋げている。					
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	5	・研修の機会が少ない。 ・今年度は実施できていない。					・どんな事で困っているか、どんな研修を受けたいか等のアンケートを取り、内容に沿った研修を行う。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11	1	0	・モニタリング時や日々の迎え時に保護者からの意見・ニーズを聞き、作成している。	1	1	0		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	4	6	・標準化されたアセスメントツールは使用していない。					
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	4	1	・保護者、相談支援専門員とモニタリングを行い立案している。 ・受け持ち職員はいるが、対応するための時間が足りない。					・ケアプランの内容を再度把握し、職員間で共通理解を図る。 ・ケアプランの内容を踏まえた上で家や学校での過ごし方や方向性等、必要時ケアマネを通して保護者や学校から具体的に聞いてもらう。 ・立案を堅苦しく考えずにモニタリング時
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	4	2	・時間のある限り職員が工夫して活動するようにしている。 ・受け持ち職員はいるが、対応するための時間が足りない。	1	1	0		

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	4	2	・事業所内の活動だけでストレスを感じないよう、近所の公園に出かけたり買い物に同行してもらったりしている。 ・本人のペースに任せていることが多い。							だけでなく、その時にいる職員で活動内容を話し合う。 ・他の施設の見学を検討する。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	4	2	・スペース、人数等により活動の個別化は難しいが、可能な限り個々の状況に合わせて計画している。 ・個人の特性を活かして考えていく必要がある。								
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	3	4	・毎日とは出来ないが、モニタリング時は複数の職員が参加し、次の支援に繋げている。								
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4	5	・終了後にはしていないが、気付いた点などは職員間で話し合い共有している。								
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	1	1	・良かったことだけでなく、悪かった部分も記録に書くようにしている。								
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	2	0	・定期的に保護者・相談支援員とモニタリングを行い、1/w事業所内でモニタリングを行っている。								
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2	9	1	・ガイドラインを目にする状況がない。 ・ガイドラインの総則が周知されていなく、基本活動を組み合わせているか分からない。							・ガイドラインの総則を連絡ノートに綴り、周知する。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	1	0	・支援専門員の招集に合わせて、ふさわしい関係者がサービス担当者会議に参加している。								
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	11	1	0	・年度ごとにスクールバスの運行状況に伴うサービスの利用調整など学校側と連携している。								
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	5	2	・現在対象者はいないが、状況に合わせて対応する。								
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	4	2	・相談支援専門員との情報を共有している。								
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	5	2	・事業所へ移行した事例はないが、事例が生じた場合は支援内容等の情報を提供する。								
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	5	3	・研修や事例検討会に参加している。 ・一貫性の対応をするためにも助言や研修は受けたい。							・接し方、対応方法が学べる研修を行う。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	1	11	・障がいのない子どもと一緒に活動することがないので、関わる機会があると思う。	0	0	2					
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	5	3	・案内があれば積極的に参加するようにしている。								
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	1	0	・送迎時や連絡帳を活用し、本人の状況を伝えるようにしている。 ・共通理解はもう一歩踏み込むことも必要に思う。	1	0	1				・子どもの発達の状況や課題について共通理解が出来ていない。	・共通認識出来るように保護者と学校の先生、計画相談員、事業所のケアマネと連携して共通理解していく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	10	2	0	・保護者に対して遠慮し、全て話せていない気がする。									

関係機関や保護者との連携	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	1	0	・共生型サービスの特徴、サービス計画に沿った支援内容、利用者負担額など説明し、了承をいただいている。	2	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	5	0	・面談などで、将来への心配事や就活などの相談に応じ、対象者にとって最善はなにかを一緒に話し合っている。	1	1	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	6	・肢体不自由者父母の会に参加し、情報交流を図っている。 ・保護者同士が連携を希望しているか不明である。	0	2	0		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	0	・苦情窓口を設定し、契約書へ明記、対象者や保護者に周知している。苦情があった場合は速やかに原因を究明し、解消・解決につなげるようにしている。	1	1	0	・まだ経験なし。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	5	2	・定期的に広報誌を作成し、発信している。	1	1	0	・知らなかった。 ・「障害」を「障がい」と記載を希望。	
	35	個人情報に十分注意している	11	0	1		2	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	1	1	・伝え方や対応の仕方など、一人一人に合わせて変化させている。	2	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3	4	・事業所内の招待はしていないが、総合防災訓練では外で見学してもらった。事業所内に入らないため地域の方も来やすいと感じた。					
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	5	0	・策定してあるが保護者への周知はしていない。	2	0	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	1	0	・対象者と一緒に定期的に防災訓練を実施している。	2	0	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	0	・高齢者に対する研修の中で機会を作っている。					
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	8	0	・計画に記載はしていないが、身体拘束について基準や手順を明確にしている。					
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3	7	・現在対象者はいないが、必要時対応できる範囲内で対応する。					
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	1	0	・ヒヤリハットで情報の共有ができて、意見交換の場が持っている。					
満足度	44	子どもは通所を楽しみにしているか					1	1	0	・出かけられるのが当たり前となってしまう思考。	
	45	事業所の支援に満足しているか					1	1	0		